福井県衛生環境研究センター活動報告　概要

発表演題名	三方湖流入河川の藍藻 *Microcystis aeruginosa* を用いた生長阻害試験
発表学会名	第５８回日本水環境学会年会
発表者名	蔦原　仁平（環境部）
開催場所	九州大学伊都キャンパス（福岡県福岡市）
発表日時	令和６年３月６日（水）１３：３０～１５：００
発表内容	植物プランクトンは湖水の有機汚濁の主要因の一つであるとともに、一次生産者として水圏生態系の基底をなす生物である。そのバイオマス量や種構成は、湖沼の水質や水圏生態系を左右する。三方五湖のうち、最も上流に位置する三方湖は、水深 2m 程度の浅い淡水の富栄養湖である。三方湖の流入河川である鰣川（はすがわ）は、その流域に水田、畑、住宅および事業所がある。このため、これらの排水や処理水中に含まれる栄養塩や、農薬をはじめとする化学物質は鰣川を通じて三方湖に流入することになる。 今回、湖沼の一次生産を担う植物プランクトンの生長について、流入河川の水質が与える影響を明らかにするため、三方湖の流入河川である鰣川を対象に生長阻害試験を行った。その結果、一部の試料に生長阻害が見られたが水質との関連性は見出せなかった。また、北潟湖の流入河川である観音川と比べて鰣川の毒性が低かったことから、流域の違いで毒性の傾向が異なることが示唆された。